

「若冲の鳥・獣・花・木

いっさいしゅじょうしつうぶっしょう

— 一切衆生悉有仏性 —

「一切衆生悉有仏性」とは、《生きとし生けるもの全てに、仏となる種がそなわっている》という意味の仏教語です。京都の裕福な商家に生まれた伊藤若冲は、禅僧たちとの交流のなかで絵師として大成し、自らも出家して僧となります。若冲が描く鳥・獣・花・木は、なぜ魅力的で美しいのか？若冲の絵に秘められた仏教的意味、生命観について、本展に出品されている《鳥獣花木図屏風》を中心に考えてみましょう。

講師： 竹下 正博氏（佐賀県立博物館・美術館 副館長）

専門：仏教美術。仏像を中心に、古美術全般にひろく興味を持つ。

展覧会「運慶流」（佐賀県立美術館、2009年）「古美術へのいざない」（佐賀県立美術館、2016年）等多数

講演会スケジュール

2025年 7月 5日（土）

午後 2時00分～3時30分

（開場 午後 1時）

募集人員：先着150名

（定員になり次第締め切らせていただきます）

聴講料：一 般 1,200円（入館料込み）

高大生 1,000円（入館料込み）

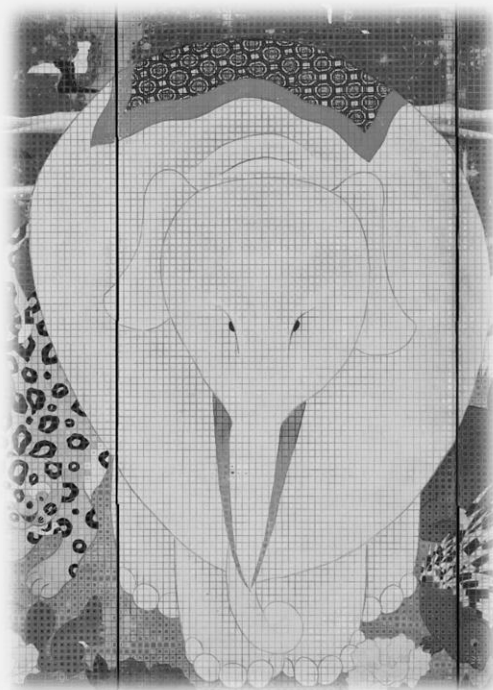
申込方法：当館受付もしくはお電話でお申し込み下さい

会場：出光美術館（門司）1階 イベントホール

※ 招待券、団体割引、身障者手帳を含む各種優待割引は
ご利用いただけません。

※ 友の会同伴者優待は適応されません。

※ 高大生は学生証をご提示下さい。



鳥獣花木図屏風（部分）伊藤若冲
日本 江戸時代（18世紀）出光美術館所蔵